

なんごうり



特集 こんな農業しています！
この人に会いたい！

この人に会いたい！

田中正夫さん(七条町)

どしゃくでも？ ドア



ごくふつうの住宅地に、突如現れる桃源郷のような空間。濃いピンクの花が開いている様子に思わず歓声を上げてしまいます。
「思ったより早よ咲いたわあー」と教えてくれたのが、田中正夫さん(83)。ハス池を作った「仕掛け人」です。
もともとは休耕田だった土地を整え、ホテイアオイを植えたのが始まりで、今では8aの土地に水を張りハスを栽培。開花時期は、7月に入ってからが一般的なのですが、取材にお邪魔した6月下旬にも運良く花開いてくれたのです。

ハス池が住宅地に登場!!



「お宮さんやで」とのこと。ドアの向こうがちょうど足柄神社への裏道になっているという訳なのです。どこへでも行けるわけではないですが、ドアを抜ける瞬間は大人でもワクワクしてきます。

気になるのは、畑の奥にあるピンク色のドア。「どこでもドアやで！」と田中さんはニヤリ。町内の子どもたちにおもしろがってもらえたらとの思いで作ったお手製です。ちなみにこのドアを抜けるとどこへ行くのかというところ。

ベンチを用意しています



撮影：清水康雄

元気の秘訣

ハス池もドアも「みんなに見てもらいたい、喜んでもらいたい」という気持ちのみでやってきたという田中さん。よそからの見物人も少なくなく、それが何よりうれしいとのこと。

ユーモアいっぱいな元気の秘訣は、「楽しいことをする」だそう。田中さんにとつてみんなの笑顔が楽しさの源になっています。
ハスの開花時間は朝6時半ごろから午前中にかけて。朝のうちにぜひ見に来て！と大歓迎です。
所在地 足柄神社(七条町700)の西裏

今週の表紙

お茶目なヤギの、こゆきちゃん。特集で紹介した、きたがわ農園さんで飼われています。役割は、草を食むこと。人間にとってはめんどろな草刈りを担ってくれています。撮影：清水康雄



編集後記

「湖北の歴史は、水の確保の歴史でもあるんやで」。そんなことを教えてくれた人がいます。田んぼの面積に比べて、河川から確保できる水の量が少なく、水争いが繰り返された地域もありました。お米を無事に収穫するために、昔の人たちは知恵を絞って水を得ようとしてきたのです。編集集中猛暑におそわれていますが、今年も湖北の地が潤いますように！

次号の特集はただいま鋭意検討中です。お楽しみに！

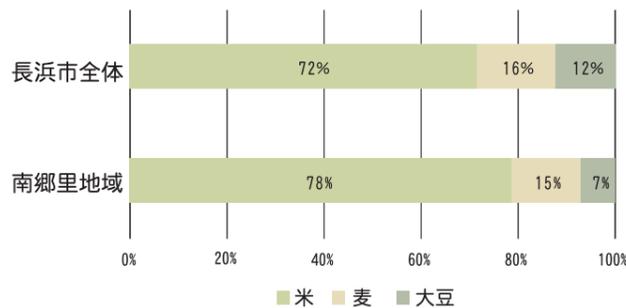
こんな農業をしています!

～南郷里地域の特色ある農を訪ねて～

南郷里地域では田畑は見慣れた風景ですね。
ふだんは特に気にかけることのない風景のなかに、
農家さんの独自の取り組みがあります。
珍しい農作物、栽培規模…新たな発見がありそうです。

南郷里の農業の特色って!?

長浜市全体と比較した作付面積の割合



湖北地域の農作物というと米のイメージがあります。
市農業振興課によると、南郷里地域を含む長浜市
全体の農業としてはやはり圧倒的に稲作が多いのが
現状のようです。

上記グラフは、令和3年度の米、麦、大豆の作付
面積の値^{*}を比較したものです。南郷里地域は、市全体
と比較して、米が若干多い一方で、大豆が若干少
ないのが特徴でしょうか。

今回の取材では、米麦大豆の栽培を当然としなが
ら、プラスアルファの方向性を加え農業経営に励む
生産者さんの姿を知ることができました。

^{*}補助金・助成金の申請があった生産者を対象にしたもの

夏にも地元産のブロッコリーを届けたい 別府農園 (南田附町)



収穫したばかりのブロッコリーを手に別府さん

園主の別府寛夫さんが、代々続く家業の後継に入った
のは、30歳のときでした。当時は食品スーパーに勤めて
いましたが、お父さんの病気をきっかけにサポートに入ると
徐々にその楽しさを見出し、35歳で農業に専念することに
したのです。

稲作に加え力を入れているのは、ブロッコリーです。前
職時代、人気野菜ながら地場産の流通がほとんどなかつ
たことに着目。「暑さに弱いブロッコリーを7月～9月に
出荷し、周年販売する」のが目標です。

「生産したものは自分で販路を開拓して消費者に届ける」
ことがお父さんのこだわりでした。「私はこれに『すべて地
元で消費していただく』を加え、日々がんばっています」。

買えるところ 米 / 平和堂、パロー
ブロッコリー / 平和堂、イオン長浜店



問 0749-62-6523 **ブログ** 「百姓な毎日」

南郷里エリア最大級の玉ねぎ栽培 きたがわ農園(株) (榎木町)



玉ねぎ専用の収穫機

約60町もの耕作地で、米、麦、大豆のほか、玉ねぎ、
ブロッコリー、白ネギ、ほうれん草などを手がけているの
がきたがわ農園さんです。

特に玉ねぎは、南郷里地域の生産者としては最多クラ
スの生産量を誇るそう。機械や設備が充実しているのも
自慢で、玉ねぎに関しては専用の収穫機を北海道から特
別に取り寄せ、使っています。

今年からは花の栽培にも取り組み、リンドウの生産も。「今
後もスタッフとともに、自然豊かな田園風景を守りながら、
多様な野菜づくりにチャレンジし、みなさんの食卓においし
さを届けたい」と園主の北川稔洋さんと妻の富美子さん。

買えるところ 平和堂、パローほか

まもなく旬! 健康にもおすすめフルーツ (株)グリーンパワー長浜



1日しか咲かないという花

稲作をメインとしつつ、大東町のビニールハウスで栽培
するのが、南米原産のパッションフルーツです。

20年ほど前に地域の特産品化をめざして試験的に育て
始めたのがきっかけ。現在ハウスでは約20本の木が植わ
り、スタッフの江畑泰子さんが主担当として世話をしてい
ます。

取材時はレモン大の青い実でしたが、熟すると赤紫色に
なり、7月中旬から8月末に収穫。種まで食べられるのが
特徴で、「甘酸っぱくて食べやすいですよ。そのままでも、
ヨーグルトなどと合わせてもおすすめです」。免疫力の上
昇や、生活習慣病の予防につながるβカロテンが豊富で、
美容や健康にうれしい効能もありますよ!

買えるところ 産直びわ

長浜で唯一のもち麦品種栽培 松波農園 (榎木町)



妻の智子さんサポートし運営

松波末和さんは、平成31年の退職を機に兼業から専
業農家になり、もち麦「キラリモチ」の栽培を始めました。
栄養価の高いこの品種を長浜市内で生産しているのは松
波さんだけ。業務用の大型精麦機の導入も「おそらく市
内でうちくらい」だそう。このほか、米、大豆、黒豆、小豆、
ウコン、菊芋等を生産しています。

「食から健康を」をモットーに減農薬に努め、農薬は最
初の除草剤だけにして、県から「環境こだわり農産物」
の認証を取得。もち麦はもちろん自家製黒豆納豆など、
自ら育てた農産物を毎日食卓に並べて、家族の健康を
維持しています。その安心感とおいしさで、県外のお得
意さんも多いそう。

買えるところ 道の駅(浅井三姉妹の郷、近江母の郷)、長浜
まちなか・まちなか、平和堂、日曜朝市(湖北農業会館)ほか

問 090-6736-5674

安心して食べられる安全な野菜を 合同会社郷生の里 (七条町)



圃場の指揮をとる辻勝人さん

「辻種苗」の店舗裏に野菜の直売所「郷生の里」が開
店したのは今から8年前のこと。種の行商、苗の販売に
加え「次は育てた野菜も」となったのは、辻和男社長の
弟・勝人さんの「孫に新鮮・安全な野菜を食べさせたい」
という思いがきっかけでした。

店の周辺などに点在する圃場では、勝人さんを中心に
スタッフのみなさんが汗を流し栽培に取り組みます。なじ
みのある季節の野菜を、できるだけ低農薬・有機肥料で
栽培するよう心がけています。

今後は「SNS等を利用してスタッフを増員、周知もして
いきたい」。昨今の自然災害と戦いながら、圃場運営の
模索が続きます。

買えるところ 郷生の里(辻種苗内) 七条町 1151

問 0749-64-1136

お盆には欠かせない! 花きに注力 小川ファーム (今川町)



兄の貴行さん(右)と弟の剛史さん

小川貴行さんと剛史さんの兄弟が主力を担う小川ファ
ームで力を注ぐのは、花き類の栽培。ビニールハウスで仏
花に適した種類を手がけています。

もともと専業農家で、兄弟揃って家業を継ぐことに。従
来から生産していた米、麦、大豆のほか、南郷里地域
では生産者が比較的少なかった花に着目、現在は、中
輪菊、小菊、葉牡丹などを剛史さんが主担当となって育
てています。

取材時は、お盆の出荷最盛期に向けての世話の真っ最
中。兄弟ならではの息の合った運営を進めており、「今後
も園芸品種に力を入れていきたい」と話します。

買えるところ 花き類は、道の駅 伊吹の里
旬彩の森、産直びわ

ホームページ